



# 久高島へのUターンを考える 地域円卓会議

## 久高島観光基礎調査結果報告会

久高島への若者のUターンを促すための住居施策について考える  
～空き家対策を中心に～

## 実施報告書

日 時： 2018年6月3日(日) 13:00-16:30  
場 所： 久高島離島振興総合センター（沖縄県南城市知念久高231番地2）  
主 催： 南城市、久高区  
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
NPO法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】久高島へのUターンを考える 地域円卓会議



- 日時：2018年6月3日(日) 13:00-16:30
- 場所：久高島離島振興総合センター
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：18名（地域住民・行政・企業）
- 主催：南城市、久高区
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄  
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供 西銘 幸太 氏（久高島青年団 団長）

#### 久高島への若者のUターンを促すための住居施策について考える ～空き家対策を中心に～

久高島は、南城市知念の安座真港から高速船で15分程の海洋上に位置し、神の島と呼ばれる通り琉球王朝成立以前から重要な祭祀行事が行われてきました。また、独特な土地制度でも知られており、島の全ての土地は神から与えられた共有のものであるという定義のもと、土地憲章が掲げられ区から借り受ける制度となっています。

近年は観光客が増加し、資源管理と産業振興の両輪をもって島の発展を推し進めていく新たな文脈が生まれてきておりますが、その担い手である島出身の若者の大半は沖縄本島に居住し、島に戻って来たくても戻れない状況になっております。その理由の1つが住居の確保であり、ここではその解決策の1つとして考えられる空き家の活用を主軸に据えながら若者のUターン促進について議論したいと考えています。

#### センターメンバー



西銘 幸太  
久高島青年団  
団長



西銘 忠  
久高区  
区長



並里 和博  
土地管理委員会  
委員長



仲間 俊郎  
人材育成・地域  
活性化コンサル  
タント オフィス  
仲間 代表



赤嶺 政信  
琉球大学  
人文社会学部  
教授



西銘 政秀  
南城市ガイド  
アマミキヨ浪漫  
の会 顧問



山城 興朝  
沖縄タイムス  
読者局  
局長

## ➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

### 事実の提供

- 久高島（以下：久高）の基礎情報
  - ✓ 住民基本台帳の記載人数 247 人（2018 年 1 月）
  - ✓ 実際に住んでいる人は 170 人程度（2018 年 3 月）
  - ✓ 高齢化率 45%
  - ✓ 人が住んでいる家は 115 件、空き家が 22 件、合計 137 件の家がある
  - ✓ 人が住める条件の空き家 22 件の内、トーターメーがあり位牌が設置されている家が 5 件ある。その 5 件は今後も利用されるため、他の人が利用できない
  - ✓ また他に、借家が 26 件ある
  - ✓ 年に数回だけ使う家も含めると空き家は 47 件となる
  - ✓ 人口のピーク時は 500 名を超えていた
  - ✓ 島に住んでいる久高出身の 30 代は 3~4 名、それに加えて奥さんがいる
  - ✓ 以前は、毎月行事があったが、担い手不足のために、行事は減ってきている
- ✓ 12 年に 1 度行う祭祀イザイホーは 1978 年に開かれたのを最後に、その後、行われていない
- 島での仕事は、主に、NPO 法人久高島振興会やマリショップ、もずく漁等がある
- 久高出身の若者は、南風原町や那覇市に住んでいる人が多い。そこから南城市に車通勤後、船通勤をして、もずく漁などを行う人もいる
- 島の土地は皆の土地で、土地管理委員会が管理している
- 土地の所有権は認められていないが、土地の利用権は子どもに譲ることができる
- 家を借りたい人は、家主を見つけ、個別交渉をしなくてはいけない
- 3~4 年前に借家を探したが、仏壇があったり、リフォームしないと住めなかったりなどで、家を借りることができなかった
- 現在の空き家 22 件は、電気、ガス、水道が使えるため、少し手を加えれば、住むことができる
- 島内にある築 50 年の実家には、ネズミ、ムカデが出る。古すぎるため修復は難しいと言われた
- 久高島留学センターがあることで、久高小中学校が維持されている
- 過疎化対策のために、久高島総合計画検討委員会が 2015 年に立ち上がった。その中で、産業や働き手、住居、福祉施設について、久高の人たちで話し合った
- アマミキヨ浪漫の会のガイドは 80 名程度。ビジネス目線も持ちながら、南城市の文化の保存、継承を行う
- 久高島には、年間に 57,000 名の観光客が来る。4~5 名のガイドで、月に 400~500 名を案内している
- ガイド料金は、人数に関係なく 1 時間 3,500 円、2 時間で 4,500 円、3 時間で 5,500 円
- 島にはアパートを建てられる土地はある、土地を提供することは問題ではない。島の人は、市営住宅を望んでいる
- 島に市営住宅は現在、4 世帯ある
- 島に帰って来たい若者はいるが、住む家が無く、また、保育所が無いなど、子育て環境が整っていないため、帰って来ることができない
- 働く場所があっても、学童保育や幼稚園など、子どもを預ける場所がないため、なかなか働くことができない
- 1979 年当時も、島には 20~30 代の人は数えられる程度しかいなかった
- 久高島には、絶家等をしたときに、ヒヌカンなどを家の東側で奉るヤシキグリーン（屋敷御恩）という文化がある。前居住者に敬意を示し、空き家を有効活用する知恵
- 南城市では、ムラヤー（公民館）を活性化し、地域力を高める（地域のことは地域で行う）事業を行っている

### 評価の提供

- 行事（追い込み漁等）では、60 代が中心に活動している。そのため、10~20 年後には行事ができなくなると心配している
- 地域を盛り上げたいと思う若者がいるが、人数が少ないために、想いを形にするのが難しい状況。しかし、ポテンシャルは高いと考えている
- 地域を自分たちで何とかしようとする意識が高い
- 石の切り方に手が込んでいて、石垣の景観がすばらしい
- 久高島は暮らしやすい場所である
- 以前は、久高の一部の人だけが市役所とやり取りしていたが、現在は、要望書等を自分たちで書くなど、行政との関係性がつくられてきている
- 位牌などがあり、所有者が正月や盆に返ってくるため、空き家の活用は基本的に難しい
- 久高島は、ガイドをすることで、観光客の満足度が高まる場所である
- 久高の人たちが、本日の円卓会議のような話し合いに、より参加してくれるとよい

## 視点の提供

- 現在の土地管理委員会では空き家と借りたい人の仲介をする機能はないが、相談窓口や仲介機能が必要だと思う
- 給料を支払い、役割を担う人を確保して、帰省希望者の窓口をつくることが重要
- NPO 法人久高島振興会が仲介業務を担ってはどうか
- 家主との交渉には時間がかかるため、まずは公営アパートをつくり、住める状態をつくってから交渉を続けてはどうか
- 総有地制度とは、久高の総意の下で、島人たちが使わなくなった土地を回収して、再度使えるようにすることである。それが出来ない例外があるので、それを早急に明確にすべき
- 危機意識を持って、今の若者にお金を投資して、戻ることができる状況をつくるべき
- 島の土地は総有（皆の土地）であると、島民の皆で改めて確認をする必要がある。屋敷御恩などの先人の知恵を活用しなければ、土地が荒れ放題になってしまう
- 土地に関して、権利の無い人と一緒に決めることはおかしいため、はっきりと区分したい
- 土地憲章も守られているところと、守られていないところがある。それは、記載されている文言の解釈の違いである。文言の理解を統一して、島で決めたことは、しっかり守るべき
- 家は、住めなくなる前に手を入れないと朽ちてしまう
- 若者は、家と保育所、医療が整えば島に戻ってくると思う
- 伝統だから残さないといけないわけではなく、まずは人の生活があつての祭事であると思う
- 島に住む人がゆったりと過ごせることが大切で、沢山の観光客はいらない
- 島に来た観光客は場所が分からずに、自転車で右往左往している。早急にガイドを養成していきたい
- 市営住宅は、子育て世代が住み、子育てが終わったら出て行き、また、他の人が入るような状況になって欲しい。そうしないと、また建てなければいけない状況になる
- 市営住宅の人に一軒家の紹介や、一軒家に住んだら、その家に一生住める権利が発生するなどの仕組みがあれば、出入りが多くなるのでは
- 個人任せにするのではなく、島を経営するような仕組み、組織が必要。今年に設立した島建て協議会が、その役割を担うべきだと思う
- 塩やウニ、ヤギなどを観光業と絡めて産業にするとよいのでは
- 野菜工場ができる計画や、ウニ、ヤギ、観光の事業を行いたい人がいる。そのため、島建て協議会をしっかり運営して、産業を一つ一つ立ち上げていけば、5~7年後には、50名程度の雇用は可能だと思う。そして、若い世代が住むようになれば、教育、福祉の環境も相乗効果で上手くいくはず

## 事例の提供

- 名護市の事業として、地域にビジネスをつくり定住者を増やす目的で、古民家を活用し、宿泊体験施設やカフェを開始した
- 伊平屋村では、一括交付金を活用して、村が空き家を買取り、修復して、村外から子どものいる人を優先して公募し、3件が活用されている

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 持続可能な島のあり方を、島建て協議会で決定し、南城市はそれに対して、寄り添った支援計画を
- 事業計画の特に重要な目標設定は、観光業を含む産業構造とインフラ、それを勘案した人口プラン
- 22件の空き家は、住居利用のみに拘らず、計画を成功させるための資源として効率的に活用させる

## ■参加者によるサブセッション

### 「久高島への若者のUターンを促すための住居施策について考える

～空き家対策を中心に～」(原文のまま)

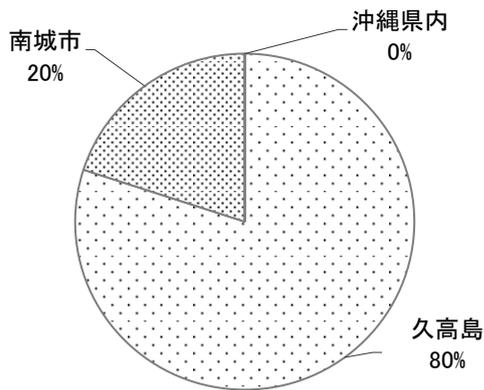
- ① ニーズが明確でない・・・  
→実際は何名のUターン希望者がいる？  
→3名は確実。リノベか新築か。  
2～3万/月  
実家と近くで住む活
- ② ・小学校19名。島の人には10人いない。先生の子どもなど  
・市営住宅が切り札  
・空き家の活用が進まないのは、本島と近く、行き来が簡単なこと。(別荘的住い方)  
・島の空き家を借りるには、島の事情をしっかりと伝えるしかない  
・住居の利用権は相続されても、畑はもどしてもらわなければ、土地利用がまわっていかない。  
・NPOは法人なので、島以外の人もいる。こういうところで交流することは重要。
- ③ 100坪以内  
大工3人(内1人)  
・振興会が仲介  
・働く人を外から呼ぶ。→移住コーディネーター(地域おこし協力隊)  
・島内の大工がリフォーム。
- ④ 公営住宅の現状(3LDK×4世帯)  
目的：子育て世代のために、、、  
現状：子育て終了世代が多い  
普通のアパートでもいい  
市ではなく区で建ててはどうか？  
トータルメーの集合住宅を作る
- 住宅のあっせん業務を区で実施→つきしろの区画整理してはどうか？
- ⑤ 空き家対策  
・総有地制度の適切な理解⇒抜本的見直し(時代に合わせた)  
→久高区規約・土地憲章の文言があいまい⇒解釈を揃える[作業着手中]→順調でしょう！  
島人会、区民総会、別々に役割。  
予算・自治会、及び、NPO(振興会)ミッション
- ⑥ 赤嶺チーム  
《若者の働く場の提供》  
・インターネット環境を整える  
・IT関連会社のオフィスをおき、雇用は地元の人と条件を付ける  
《空き家対策》  
・仮住居(市営等)を置き、古民家が整い次第、移ってもらう方法  
・イノベーションがうまくいくと利用者が多くなる(事例：壱岐市)
- ⑦ 空き家対策など、  
・数をみておどろいた。  
協議会などで管理しては？  
い改修して(土地も大変だから)  
古民家の修復費が気になる  
観光  
・観光がうまくいけば、雇用につながると思うが嫌がる人がいる

## 久高島へのUターンを考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

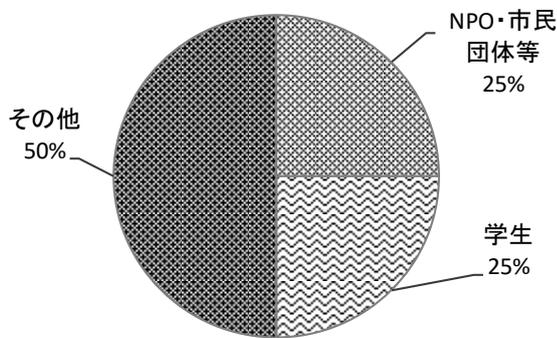
### ◆概要

- ・日時：2018年6月3日(日) 13:00-16:30
- ・場所：久高島離島振興総合センター
- ・着席者：9名(論点提供者、司会、記録者含む)
- ・参加者：18名(アンケート回収5名、回収率28%)

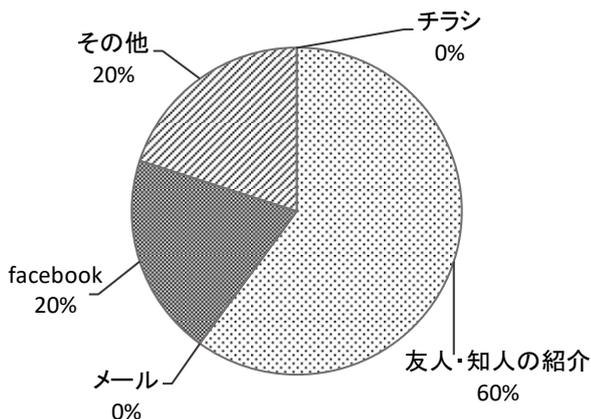
### 1. どちらから？



### 2. 所属



### 3. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.5 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
2名	2名	1名	0名	0名

### 5. 満足度の理由

#### (5. 満足)

- ・久高島は、円卓会議をやったことがなかった。また、島の人が会議の重要性を知ったと思う。
- ・今まで住宅の件や、子育て(保育所)の件、とても気になってたので、今日、少しの間しか参加できなかったのですが、色々話が聞けてよかったです。

#### (4. 概ね満足)

- ・もう少し島の人が出て欲しい。
- ・観光、空き家の現状が理解できた。

#### (3. 普通)

- ・生活してみて、感じてたことを話していた。

### 6. 観光基礎調査結果報告会で印象に残ったこと

- ・古民家、改修
- ・区民が少ない
- ・調査結果と実態が違うという意見もあり、調査の難しさを感じた

### 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・島の代表が、久高の思い(神行事)を強く思っている

(写真) 会場の様子



## 久高島観光基礎調査結果報告会

2018.6.3(日) 久高島観光振興委員会 13:00-16:30

### 久高島へのUターンを考える

# 地域円卓会議

久高島への若者のUターンを促すための住居施策について考えるへ空家対策を中心へ

主催 南城市、久高区

西銘 幸太 平良 山城 西銘 並里 西銘 赤松 仲間 俊郎 赤松

### 調査報告

- 観光実態調査
- 住民意向調査
- 古民家空き家調査
- 他地域先進事例調査

若者の定住促進が課題。でも島内に住む場所止?

実家/借家 47件 (うち空家 1/3)

有効活用が島の活性化の鍵

観光客 8割は日帰り → 滞在3~4時間(平均)

日帰りの滞在が2割ほど、1泊以上は7割ほど

滞りのサービスが、Uターン促進に

空き家の割合が21% (2018年)

人口 257人 198世帯

人口減少 (住居基本法)

2030年 32人 (12%)

人口統計

空家/借家 47件 (うち空家 1/3)

島人の土地信託 30件 (うち空家 1/3)

仕事/家事

島内/空家 47件 (うち空家 1/3)

全戸数約 113戸

有効活用が島の活性化の鍵

### 論点提供

#### 西銘幸太さん

久高島青年団 団長  
34歳 専業主婦 (妻)  
人口約500名、27戸  
高齢化率45%  
30代 3~4名、若い世代が少ない

若者足りない  
行事などで中心になるのが60代、10~20年代も減ってきて  
行事ができていない

若者が戻ってこないか? 帰ってきた人いる  
家がない、保育園がない、子育て環境が整っていない

人口 170人 (住居25戸) 実際住居は113戸

空家 47件 (うち22件が住居)

借家 26件 (うち15件が住居)

115件

親と同居している  
かりわりの家が少なくなってきた。3~4年前

妻瀬さん  
南城市 主婦(本)  
若者の力、人口の減少(東西)  
久高がモデルになるのでは  
若者が戻るといい

南城市に若い世代の人が少ない

仕事は少ない  
保育園がない、子育て環境が整っていない

#### 西銘忠太

久高区長 2018.4月~  
60歳

若者がいない、学校がなくなるかもしれない  
小・中  
西銘、このままでは危ない

子どもが育つ場所がない、学童など、なかなか働けない

行事は減ってきている、担い手不足のため

子育て環境

行事

#### 並里知博さん

土地活用研究会 会長

島の土地は皆の土地

管理する人が土地管理委員会

相談できないが、利用権は子どもにも与えられる

空き家の活用 基本必ずしも本人同意の中での話ではない

仲介サービスが必要では、土地管理委員会が中心になる

22件 戻ってきた若者が相談できる窓口があるよ

#### 仲間俊郎さん

おひな 代表

自分たちが何ぞしよう、というのがある

行政との関わりが少なかった、今は関係つくってきた

総合計画つくれた理由が、若者のUターン/住居/施設

空家17件、ある施設

窓口 どのようにするか、若者希望者のマッチング  
まずはサポートして住居の状況は  
の先 公営サポート

古民家再生の事業  
久高では事業がない

既に土地をかえすルール、農業以外の10名雇用で事業  
2~5名 → 40~50名雇用

#### 赤松政信さん

琉球大学 教授 知念高校出身

1999年~研究者として、  
Uターン促進(若者)少なかった  
イノベーション 1998年であった、2000~2002年

人の生活の場をつくること

ワークショップ → 30件あった  
→ 絶望したところ

空き屋敷に人が入ることでワークショップで決めた11件

有効活用の知恵

観光 量と質を区別

#### 西銘政秀さん

南城市が作った3日3夜浪漫の会 顧問

11代 80代

南城市 文化・歴史・観光を促進

57,000名 観光客(久高島)

400~500名/月 サイクル / 9~5名/日

自転車道が伸びている。(島の中で)

3500名/時前 場所が少なくて、内容が少なくて

ガイド 観光 島人の家で情報共有

島の土地であること 再開発する 先人の知恵も活用していく

#### 山城興朝さん

沖縄タイムス 読者局長

課題は分かっていない

古民家 修復 名護 #カネエポロ

公(行政)の関わり有効

修復のついでにそのほかの活動

住めなくなる前にも入れる

仲介サービスと振興会が持てば

### ルールの再確認

使わなくなった土地は、キヤウ、土地審判、決めたルールを守っていく

投資すること必要

個人より可能性ある

ウニ、カキ、ガイド、観光 5~7年先 → 40~50名の雇用

人口と産業計画 30代の人はいない、久高への人が

若者のニーズは? 家 保育園 医療

久高2世 保育園が3件、50年 木造ミカド 実家

### 権利ある人でます(土地) しかり決める、 話し解決の場がないと解決

### 集合住宅

→ 住民望んでいる、 → 土地提供可能

### 市営住宅

4世帯ある、 1戸1世帯、 1戸1世帯、 1戸1世帯

1戸1世帯から、 出た、出た、出た、出た、出た、出た

### 島を経営する

仕組み、組織が必要

集まり、協議会、実行委員会

久高の方の参加をより期待

石垣すばらしい、景観

ニーズが明確でない...  
 → 実態は何名のロマン希望者がいる? 先例  
 芳名が暗黒. リノバが新筆か!  
 2→3/日

---

実家と近くで住む話

小中学校19名. 島の人は10人くらい. 失態の子供たち  
 ・市営住宅が切り札  
 ・空き家の活用が進まないのは、本島と近く、  
 行先がカンタンなこと。(別荘的住い方)  
 ・島の空き家を借りるには、島の事情をしっかりと  
 伝えるしかない。  
 ・住居の利用権は相続されても、畑はもどいて  
 ちりねなければ、土地利用がまわらない。  
 ・NPOは法人なので、島以外の人もある。こういうことで  
 交流することは重要。

100±坪以内  
 オモ3人(4人)  
 振興会が仲介

・僅かく人を(外)から呼び。  
 → 島内の人がリノバ。  
 多様なテナント(地域内)

市営住宅の現状 (3LDK×4世帯)  
 目的: 子育て世代のために...  
 現状: 子育て終了世代が多い  
 普通のアパートでも...  
 市ではよく区で建ててはどうか?  
 トロトロの集合住宅を作る  
 住宅の姿、せんま蔵色区の実施→つとえLSの  
 区画整理してはどうか?

空き家対策

・所有地制度の適切な  
 理解⇒根本の見直し  
 (時代に合わせた)  
 ・欠損現物、土地差率、  
 文言がある⇒解釈を  
 揃える作業着手⇒順調  
 島人会、協会、町会、自治会、NPO(振興会)

策

適切な見直し  
 憲章の解釈を  
 → 順調  
 役割

赤嶺子ム

《若者の働く場の提供》

- ・インターネットの環境を整える
- ・IT関連会社のオフィスを  
 おき、雇用は地元の人と  
 条件を付ける

《空き家対策》

- ・仮住居(市営等)を置き  
 古民家などがととのい、次第  
 移ってもらう方法
- ・イノベーションがうまくいくと  
 利用者が多くなる  
 (事例: 屯岐市)

空き家対策など

- ・注文をみておくと30した。
- ・協議会などで管理(には)  
 知らない。(土地も大変だから)
- ・古民家の修復費が気になった

権見光

- ・権見光がうまくいけば  
 雇用につながると思うが  
 仕事がある人がいる。